

重点目標		具体的取組		実施状況の達成度判断基準		集計結果		分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）	
1	確かな学力と進路実現の保障 探究型学習の推進など、授業改善により学びの質の向上を目指し、全ての教育活動を通して生徒の主体性等を育み、生徒の進路実現へとつなげる。	①	授業改善を進め、生徒の思考力や表現力などの学力の向上を主体性をもって協働して学ぶ態度の育成を図る。	授業の内容は、生徒が主体的に活動する場面があり、思考力を高めることができる内容になっていると答えている生徒の割合 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満		学校評価アンケート（生徒） ア よくあてはまる 38.9%（前年度比＋5.3%） イ まあまああてはまる 52.6%（前年度比－7.1%） ア＋イ 91.5%（前年度比－3.1%） A評価		教員が授業改善に努めている中で、生徒たちはそのことを前向きに受け止めているものと考えられる。 今後は、新たな学習指導要領や新しい観点別評価方法への取組も含めて学力向上のために指導力をさらに磨いていく必要がある。	
		②	習熟度別授業等の改善を図り、個に応じたきめこまかな指導を実施する。 ・習熟度別授業の検証 ・学習意欲につながる授業改善 ・教科研究会等の充実 ・学力層に応じた指導方法の確立	習熟度別授業が学力向上に効果的であると答えている生徒の割合が90%以上の教科 A 3教科 B 2教科、またはいずれも80%以上 C 1教科、またはいずれも70%以上 D なし		学校評価アンケート（生徒） 国語は2年理系・3年文系、数学は2・3年、英語は全学年で実施。 ア とても効果がある イ ある程度効果がある 国語ア43.3%（前年度比＋3.1%） イ52.1%（前年度比－2.1%） ア＋イ95.4%（前年度比＋1.0%） 数学ア47.4%（前年度比＋3.0%） イ49.4%（前年度比－2.1%） ア＋イ96.8%（前年度比＋0.9%） 英語ア38.8%（前年度比＋0.4%） イ52.6%（前年度比－6%） ア＋イ91.4%（前年度比－0.2%） A評価（3教科90%以上）		3教科における習熟度別授業の指導は効果的であると肯定的に受け止めている生徒がほとんどである。 これは一人ひとりの学力に応じたきめ細かい指導を行っている成果であり、今後も授業改善に取り組んでいかなければならない。	
		③	高い進路目標を達成させる。 ・授業・個人面談・進路学習等を通して進路意識の高揚を図る。 ・難関大学志望者に対する添削、補習指導など組織的指導を充実する。 ・習熟度別の補習や課題を工夫し、受験に対応した指導を行う。	ア 難関10大学・国公立医学科合格者5名以上 イ 金沢大学合格者20名以上 ウ 国公立大学合格者100名以上 以上ア～ウの項目のうち達成した項目が A 3項目 B 2項目、またはいずれも80%以上 C 1項目、またはいずれも60%以上 D なし		令和3年度入試結果 ア 0名 イ 12名（目標の60%） （内過年度生1名） ウ 75名（目標の75%） （内 過年度生7名） D評価		3つの目標のいずれも達成できず、金沢大学の合格者が目標の60%に到達したこと、国公立大学の合格者が目標の75%に到達したのみの厳しい結果となった。 センター試験が共通テストになり、選抜の方法の多様化が急速に進む中で、本校の学習指導のあり方を抜本的に見直し、生徒の志望を実現しなければならない。	
		④	学習習慣の確立 1・2年生全員の家庭学習時間が平日3時間以上、休日5時間以上となるように、個人面談・授業での予習指導・週課題等で指導する。	年間の平日家庭学習時間3時間以上達成者の割合が、 A 1・2年生ともに 65%以上 B 1・2年生ともに 50%以上 C 1・2年生ともに 35%以上 D 1・2年生ともに 20%以上		平日家庭学習3時間以上達成者の割合（1学期末との比） 1年生 26.9%（前年度比－10.2%） 2年生 44.9%（前年度比＋6.1%） D評価		1年生に対して、対策が急務である。 また、1・2年生ともに平日の学習時間が低下傾向であることも懸念される。 進路指導に関するあらゆる行事や担任面談などを通して進路目標をできるだけ早く具体的に立てさせて、毎日の学習習慣を定着させるよう努めなければならない。	
学校関係者評価委員会の評価		高校1年生の早い段階から高い進路目標を持たせる取組をさらに充実させる必要があるのではないかと。そうすることで、学校での授業や家庭学習に取り組む意欲が高まる生徒が増えると考えられる。							
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策		社会の不安定要素が増す中で、学力や体力の向上、人間性の豊かさが人生の豊かさを構築するために大切であることを生徒に自覚させるために、授業改善を進めるとともに、各種の学校行事の効果がより高まるよう見直しや改善を図る。							

重点目標		具体的取組	実施状況の達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び次年度の扱い(改善策等)
2	基本的な生活習慣の確立と豊かな心の涵養 あいさつの励行から始まり、全ての教育活動を通して規範意識を高め、他者を思いやる心を持った、心身共に健康な生徒を育成する。	① 「あいさつの徹底」を通して規範意識を向上させ、自ら考え行動できる生徒を育成する。	第2回学校評価(生徒)で、「挨拶をしていますか」の問に、「①必ず挨拶する」「②だいたい挨拶をする」と答えた生徒の割合(①+②) A 100% B 95%以上 C 90%以上 D 90%未満	学校評価アンケート(生徒) ア 必ず挨拶する 62.2% イ だいたい挨拶をする 34.4% ア+イ 96.6%(前年度比+1.4%) B評価	前年度比1.4ポイント増加のB評価で、概ね良好と判断される。 しかし、保護者の一部の方から挨拶があまりできていないのではないかというご意見をいただいている通り、実態はアンケート結果と乖離している印象である。 引き続き、登下校時のみならず、授業の挨拶、校内で交わす挨拶を積極的に行うよう、粘り強く指導をしていきたい。
		② 生徒間のネットトラブル等を未然に防止するための方策として、いじめに関する校内研修会やスマホ・ケータイ安全教室などを実施する。	研修等によって理解を深めた、いじめ問題やネットトラブル等の予防・対応策を常に心がけ、日常の生徒指導において実践している教員の割合 A 90%以上 B 80%以上 C 60%以上 D 60%未満	学校評価アンケート(教職員) ア よくあてはまる 21.6% イ おおむねあてはまる 73.0% ア+イ 94.6%(前年度比+2.9%) A評価	前年度比では+2.9ポイントで、A評価を維持する結果となった。 今後もいじめやネットトラブルの防止や、早期の発見・対応に努めていく。
		③ 文武両道の実践のため、学習時間の確保と部活動の時間・内容を充実させ、運動部は北信越大会以上、文化部は北陸大会以上を目指す。	北信越大会・北陸大会以上の大会に出場した部活動の数 A 12部以上 B 9部～11部 C 7部～8部 D 6部以下	全国総体・選抜大会出場(陸上競技、女子剣道、なぎなた) 全国総文等出場(軽音楽、弁論、将棋) 北信越大会出場(男子剣道、弓道、空手道、柔道、少林寺拳法) のべ11部 B評価	全国大会には6部が、北信越大会には5部が出場を果たした。 生徒数の減少のため活動の維持が困難な部があったり、感染症対策等で活動に制限がかかったりするが、部活動は生徒の高校生活を充実させる効果が高いと受け止める保護者も多いことから、引き続き部活動の活性化に努めていきたい。
		④ 基本的な生活習慣の確立の第一歩として、全ての生徒がバランスの良い食事を摂るよう指導する。	保健・相談課のアンケートでバランスの良い食事を心がけていると答えた生徒の割合 A 90%以上 B 85%以上 C 75%以上 D 75%未満	学校評価アンケート(生徒) ア 常に心掛けている 61.9% イ 時々心掛けている 27.4% ア+イ 89.3%(前年度比+3.6) B評価	食の重要性への理解度は高いが、栄養バランスに対する意識はやや低い。 今後は保健だよりなどで食生活に関する情報提供の機会を充実させていきたい。
		⑤ 部の顧問に協力を得て部活動単位で校内外を問わず、積極的にボランティア活動をする。	ボランティア活動を複数回実施した部 A 100% B 90%以上 C 80%以上 D 80%未満	生徒会指導課調査 22部中6部＝27%(前年度36%) D評価	コロナ禍のため外部との連携が難しく、ボランティア活動をする機会が減少していることもある。 今後は部活動単位にこだわらず、生徒会からの協力も得て、「ちょっとした活動」を増やし、個々でボランティアに取り組む機会を増やしたい。
		⑥ 『図書だより』、『図書館報』、読書啓発企画を通して、新着図書の紹介や読書の楽しさを啓発し、読書習慣を身につけさせる。	生徒一人当たりの貸出数 A 4冊以上 B 3冊 C 2冊 D 2冊未満	令和3年度の貸出冊数は3019冊(前年度比+894冊) 一人あたり6.2冊(前年度比+2.3冊) A評価	1・2年生に対して貸し出しを促進するイベントを実施したり、広報活動を積極的に行ったことが、功を奏し、大幅に増加している。 今後とも、読書啓発活動を続け、生徒の豊かな心を育みたい。
		⑦ 体育の授業における体づくり運動や年間を通しての補強運動、チーム練習を主体的に取り組ませ、体力の向上を図る。	スポーツテストにおける持久走の結果で、全学年男女別の6部門中、全国平均を上回った部門 A 4部門以上 B 2部門 C 1部門 D 0部門	持久走は全学年の男女とも全国平均を下回っている。 D評価	スポーツテスト8種目のなかで、持久走に焦点を当てて全国平均値と比較すると、本校生徒の心肺能力に弱さがあることが浮き彫りになった。 本校の伝統行事であるマラソン大会の取組などを通して改善を図りたい。
学校関係者評価委員会の評価		本校の教育目標の1つとなっている「文武両道」の実践が効果的だと考えられることから、学校行事や部活動の充実にも力を注いでほしい。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策		学校行事や部活動を制限せざるを得ない状況ではあるが、生徒が自主的に工夫して前向きに取り組む姿勢を醸成しながら、可能な限り実施していく。			

重点目標		具体的取り組み		達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び後期の取組(改善策等)
3	地域から信頼される学校づくり 「未来塾」やボランティア活動を通して地域とつながり、医療や教育の分野を中心に地域に貢献できる人材を育成し、地域から信頼される学校づくりに努める。	①	授業公開やオープンスクールを実施することで、中学生・保護者に本校を理解してもらえるように努める。	体験入学参加者によるアンケート調査で満足度が80％を A 大きく上回った。 B 上回った。 C 下回った。 D 大きく下回った。	「羽咋高校への関心が高まったか」の問いに対して「とても高まった」「高まった」と回答した中学生が99.6％(令和元年度比＋2.8％)であった。 A評価 (令和2年度中止)	改善点は多いが、様々な工夫を盛り込んで実施したのでアンケート結果は概ね好評で、効果的であったと考えている。今後も内容を検討し、改善していきたい。
		②	出前授業、学校説明会、羽咋高校だより、地区別高校説明会、未来塾のPR等の実施に関して、内容・方法に工夫改善を加え、今まで以上に、地域住民、中学生や保護者に本校を理解してもらえるよう努める。	一般志願倍率 A 1.1倍以上 B 1.05倍 C 1.0倍 D 1.0倍未満	令和4年度確定志願倍率1.05倍 B評価	中学校の高校説明会、出前授業、学校だより作成と発信など様々な広報活動を強化してきた。また、本校主催の地区別説明会を8カ所開催し、参加者も昨年よりも増加した。これらの取組を通して、本校独自の未来塾の取組をはじめとする本校の魅力を積極的に発信することで、志願者数増加につながったと受け止めている。
		③	保護者や外部に向けて月別毎の行事予定表や実施した行事・部活動報告など、最新の情報をこまめに迅速に提供することに努め、本校の教育活動への関心・理解を深める。	保護者アンケートにおいて本校のホームページが「①役立つ」「②やや役立つ」と答えた保護者の割合(①＋②の合計)が A 80％以上 B 70％以上 C 60％以上 D 60％未満	学校評価アンケート結果(保護者) ア 大変役に立った 35.5％ イ 少し役に立った 51.5％ ア＋イ 87.0％(前年度比±0.0％) A評価	昨年、一新したウェブサイトが一定の効果を挙げていると受け止めている。 本校に関する情報発信は、保護者のみならず多くの方が期待している。できるだけ高い頻度で更新し、新しい情報を発信することが肝要であると考えている。
学校関係者評価委員会の評価		地域とつながり、地域に貢献できる人材育成に期待している。「高校生は地域と切り離された世代である」という話も聞くが、心配している。				
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策		「未来塾」やボランティア活動を通して地域とのつながりがより強くなるようにしたい。				
4	教職員の多忙化改善 働き方に対する意識改革と時間外勤務の削減を図り、より良い教育活動の実践を目指す。	①	平日は19:30までに退校するための1日の業務計画を立てる。部活動に関して年間計画、月別計画、実施表を作成して、適切な休養日を確保できるようにする。 業務改善にも工夫をする。	教員の時間外勤務時間調査において、月平均の時間外勤務時間 A 40時間以下 B 40～45時間 C 45～50時間 D 50時間超	1人当たり月平均時間外勤務時間 4月 48.1時間 5月 46.6時間 6月 49.6時間 7月 44.0時間 8月 22.5時間 9月 34.7時間 10月 45.5時間 11月 48.5時間 12月 36.3時間 1月 41.3時間 2月 55.8時間 3月 55.9時間 平均 44.1時間(前年度比＋3.45時間) B評価	今年度も、部活動が規制されている期間があったため、部活動の指導時間はやや減少傾向が見られる。それ以外にも確実に、土曜日や日曜日の勤務量は減少し、平日の時間外勤務も減少している。 本校の課題である生徒の学力向上を最優先に位置づけ、効率が低い業務の見直しを思い切って進めることも模索しなければならない。
学校関係者評価委員会の評価		部活動指導、授業の準備等いろいろと大変でしょうが、多忙化を改善しつつ本校生徒のために頑張ってください。				
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策		業務改善を行うとともに先生方各自の意識改革を進め、管理職からの声掛け等も行い、時間外勤務時間を少しでも減らすようにしたい。				